

## 東海道五十三次の内

### 坂下宿～土山宿まで歩く

2018年7月大相撲名古屋場所千秋楽で、御嶽海の初優勝が決まるかどうかの時、トイレタイムで寄った関宿近くにある「名阪関ドライブイン」のホールにある大型テレビを見て、優勝が決まった瞬間拍手が起こり、皆「やった、やった」と興奮した事を思い出した。

今日は2018年9月7日。長野を出て御嶽海の優勝をテレビで見た「名阪関ドライブイン」に大型バス2台で到着し、ここで昼食の弁当をいただく。

昼食後、坂下宿の梅屋本陣跡近くでバスを降り、今日はここからスタートする。

歩く前の準備運動をし、今日のコースの名所旧跡、歩き方を聞く。今回の「歩け歩け」は2泊3日の工程で、今日は第1日目である。

今回のウォークリーダー（随行案内者）は1号車村上さん（男性）、2号車望月さん（女性）、トラビスジャパン㈱の添乗員さんは1号車松橋さん、2号車石原さん、参加者は1号車31名、2号車32名合計63名である。

9月7日の天気は晴れで、気温はちょっと高いが、雨の日より歩くには良い。

ウォークリーダー（随行案内者）の話を聞く

『坂下宿は松屋本陣、大竹屋本陣、梅屋本陣があって本陣が3軒あるというのは宿場町でも珍しく、山中の町にしては華やかな宿場と想像できます。』

坂下宿は江戸より107里9町（約421.2km）あり、この地は今の三重県亀山市になります。次宿の土山宿まで2里半（約9.8km）あります。現在は「坂下」と書きますが、江戸時代には「阪之下」と書きました。慶安三年（1650年）に山水で街が全滅し、現在の所に移りました。鈴鹿峠を控えた宿場で、峠の入口という事もあって多くの旅人が宿泊した宿場です。

坂下宿は東西5町56間あり、家数153軒（内 本陣3軒、脇本陣1軒、旅籠48軒）、人口は女性292人、男性272人、合計564人でした。

現在は松屋本陣跡、大竹屋本陣跡、梅屋本陣跡には石製標柱が立っているのみ



坂下宿 大竹屋本陣跡



片山神社（鈴鹿大明神）入口

## YUME 追い人

です。

鈴鹿峠も箱根と同じく短い石畳があり、街道に沿って法安寺、片山神社（鈴鹿大明神）等があります。この鈴鹿峠は標高378mと、峠としては高くないのですが急峻な峠なので、歩くには大変です。その昔山賊や追いはぎがいた様です。又、山道には「ヒル」がいますので気をつけてください』



万人講常夜燈の説明を聞く



坂下宿から鈴鹿峠への案内版

片山神社を通り鈴鹿峠に入り、江戸時代に峠の茶屋があった所に来る。峠を越すと「伊勢の国（三重県）」から「近江の国（滋賀県）」に入る。

その峠に「万人講常夜燈」が立っている。常夜燈の笠が大きく、火袋から下の棹が長く、まるでキノコの様に見え、今までにない変わった常夜燈だ。「火袋の火を付けるのに長い梯子が必要になる」と変な想像をする。ウォークリーダーの話によると約270年前に四国の金毘羅神社から移されたとされるもので、高さ5.4m、重さ38tもあり、江戸期の東海道と金毘羅神社の繁栄を偲ばせてくれる。この重い「常夜燈」をどの様にしてここまで運んだのか。当時の職人の知恵を知りたい。



新名神高速道路起工地跡



間の宿「猪鼻村」

「山中公園」、「あいの土山石碑」を通り、江戸日本橋より109里の「山中一里塚」「新名神高速道路起工地跡」を通り、間の宿「猪鼻」から道の駅「あいの土山」へ着く。

鈴鹿峠を歩いている途中、落ち葉で土が見えなくなり、「ふかふか」した道を歩く。この「ふかふか」がいけなかった。今では余り見かけない「ヒル」がズボンの裾から入り、「ズボンに血が付いている」と後ろを歩く仲間に言われる。何という事だ。ヒルに血を吸われ、ズボンが赤くなり、裾をめくると血を吸って「長く太ったヒル」が落ちた。すぐに道路上でつぶすと道路に血が広がる。

昭和30年代から50年代には田で履く良い長靴が無かったので素足で田に入りヒルに血を吸われた事例があったと聞くが、今時ヒルが、しかも岡にいるヒルに血を吸われるとは思いつつ。今でも足に小さな黒い点が一つ残っている。1号車では私を含めて3名が、2号車では8名の方が「ヒル害」にあっている。

落ち葉の陰にいて人が歩くと落ち葉がへこみ、足を上げた反動でズボンの裾から入った様だ。

鈴鹿峠の山の中では、大きな木がうっそうと茂りジメジメしていたが、峠から下がると急に青い空が見え、周りが明るくなる。



鈴鹿峠を登る

道路わきに見覚えのあるモニュメントが建ててあり、二人の男女があっちこっちを向いて旅姿で立っている。「歴史の東海道 江戸ー土山宿ー京大坂」と下に書いてあるが、上のブロンズ像は今回我々が胸に（又は帽子に）付けているバッジと同じ姿だ。このブロンズ像を拝借してバッジを作ったものだと聞く。



バッジと同じブロンズ像

このモニュメントの前で土山宿の「歴史ボランティア」の方に土山宿の歴史や風土について説明していただく。

『鈴鹿峠を境にして三重県の「伊勢の国」と滋賀県の「近江の国」では天候の変化が激しく、鈴鹿馬子唄で「坂は照る照る鈴鹿は曇る、あいの土山雨が降る」と唄われた土山宿は、坂下宿と違い雨量が多いので山林育成には良い条件になります。長野県の本巣地方と同じく「お六櫛」と呼ばれる櫛が土山宿の特産で、みやげ品として好まれました。又木製の生活用品も数多くつくられました。』



鈴鹿馬子唄の石碑

道の駅「あいの土山」に着いたのが16時30分。ここが本日のゴールで、夕食は水口の割烹「や南平」で美味しい食事をいただく。宿泊は「ホテルルートイン甲賀水口」に行く。ここで2泊する予定。ベットメイキングする必要のないと、掃除をする必要のないとの申し出の者は500mlのお茶が配られた。ホテル側では大助かりだと思う。(余計な事かな)

2018年9月8日(土)ホテルの食事処で朝食は6時30分から始まる。8時30分にホテル駐車場で待っている大型バ

スに集合し、点呼を取り出発する。大型バスが昨日ゴールした道の駅「あいの土山」へ。全員集合した所で準備運動、今日の名所旧跡、歩き方の注意事項を聞き、出発する。



道の駅「あいの土山」

滋賀県甲賀市の土山宿にある旅籠「中屋跡」でウォークリーダー（随行案内者）の話聞く。

『土山宿は江戸より49番目の宿場町です。近江の国最初の宿場町で、1300年代の紀行文にも載っていて早くから交通の要所だった事が分かります。東海道を主に整備した大久保長安、伊奈忠次、彦坂元正らが連署で土山宿の傳馬飼料30石の屋敷年貢を免除しています。』



土山宿 本陣跡

東海道は慶長六年に「傳馬定書」が宿場に来てから本来の宿場として機能が動きました。この宿場には問屋場のあった所に「東海道傳馬館」が造られ、傳馬制度をテーマにした展示場がありますので、入館して当時の宿場町の状態を見て下さい。

土山宿は江戸より109里27町(431km)あり、次の水口宿まで2里29町あります。土山宿は町並み東西22町55間ありました。家数は351軒（内 本陣2軒、脇本陣0軒、旅籠44軒）あり、人口は女性745名、男性760人合計1,505名となっています。』



土山宿 問屋場跡

街中を歩く。関宿と同じくこの宿場町は江戸時代の商家の建物とその雰囲気の数多く残っていて、街並みが整備され、綺麗な宿場町である。



土山宿「扇屋」

土山宿本陣跡、高札場、大黒屋本陣跡、旅籠小幡家跡、金家跡、問屋場跡、等の石柱が立ててある。又商家の軒先には「たばこ屋」「仕立て屋」「お茶屋」「要志屋」「車屋」「三日月屋」「扇屋」我が家と同じ「油屋」「枳屋」等の看板が掲げられている。



土山宿「本家櫛所」

歌声橋を渡る。現代に作った



橋で、橋の上にアルミのR型屋根が付いている。旧東海道分岐点、瀧樹神社を通り、頓宮神社御殿後に来る。

垂水頓御殿跡の石柱と説明板がある。垂仁



東海道傳馬館にある盆景展

天皇の皇女倭姫は、天照皇大神の御神体を奉じて鎮座地を探して巡行したと伝えられ、この土山の地がその1つになった事が書いてある。



東海道傳馬館にある大名行列の人形

江戸日本橋より111番目の大野市場一里塚へ着く。ここで大型バスが待っており、バス中で昼食。「伊藤忠」と言う「割烹、仕出し店」の弁当で美味しくいただく。おにぎりが竹の皮に包まれて、おかずはプラスチックの綺麗な箱の中にいっぱい入っている。

土山宿の「東海道傳馬館」に入る。問屋場があった跡で、土山宿の情報だけでなく、東海道全体の情報がここにある。2階の盆景展は東海道五十三次の廣重の絵にある



土山宿 助郷村名



土山宿を歩く

景色を小さなお盆の上にミニチュアで作ってある珍しい東海道の景色や、東海道を行く参勤交代の時の大名行列の人形がたくさん並べられていた。宿場近辺の助郷の村名の看板、土山宿の景色を切り絵にした景色、宿場町のジオラマ、当時の農具や生活用品等色々な物が展示してあり、当時の生活や東海道の景色が知れる。

西(京都)に向かって歩く。次の宿場は水口宿である。水口宿東見附でウォークリーダーの説明を聞く。

『水口宿は、天正十三年(1585年)に中村氏が水口岡山城の城下町を作ったのが始まりと言われています。その後、加藤氏が城下町を整備、都市計画を施工した結果、街道が三筋に別れて続いています。水口宿内には本陣、脇本陣、高札場跡があり、三筋の道は合流しますが、中の道が東海道です。南の道近くには松尾芭蕉と関係が深い「蓮華寺」があります。又、北側の道近くには徳川家康ゆかりの「浄土宗大徳寺」や、大岡寺があり、お寺の町になっています。

その先にある、旧水口図書館は昭和初期にプオーリスの設計で建てたもので、国の登録文化財になっております。この町には他に「山車」が入っている大きな高さのある蔵があり、水口神社の祭礼にはこの山車が町内を回ります。この通りに面して水口藩主加藤氏の先祖の加藤喜明氏を祀ってある「藤栄神社」があります。その他に水口城跡には資料館がありますので皆さん入って見て下さい。

水口宿は町並み東西22町6間あり、家数692軒(内本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠41軒)あり、人口は女性1,378名、男性1,314名、合計2,692名になっております。

これから水口宿の街道の中へ行きます』

一中略一

次回(水口宿～石部宿)に続く